

正保三年銘五輪庚申供養塔



〔指定年月日〕昭和五九年三月三十一日  
〔種別〕有形文化財（建造物）  
〔名称〕正保三年銘五輪庚申供養塔  
〔点数〕一基  
〔所有者等〕永福寺  
〔所在地等〕永福一―二五―二

## 正保三年銘五輪庚申供養塔

この供養塔は、高さ一五一・五cm、幅三八cmで、高さ四五cmの台石に立っている（写真中央）。

正保三年（一六四六）造立のこの石塔は庚申塔としては、区内最古のものである。五輪塔形式であるのも当時としては大変珍しい。また、「多東郡養福寺村」という中世の名残りを持つ地名が刻まれている点も貴重である。

当初は大宮八幡宮より南へ向ういわゆる鎌倉道と、久我山方面へ通じる道路の交差点（永福三一四二―一〇）に建てられていたもので、その地はかつての修験儀宝院持の塚であったといわれている。現在の地に移されたのは昭和三〇年（一九五五）頃のことである。

本塔は「衆生旦那三世成就所」を期して造立されたものであるが、造立者をはっきりしない。しかし、江戸時代初期の庚申信仰が修験者を中心に隆盛をみせたことを考えれば、この庚申塔造立の講中にも前記儀宝院が深くかかわっていたと思われる。

なお、刻名の「養福寺」の「養」は「永」のことで、呉音では両字とも同音であることから「養」を刻んだものと思われる。

### 【文化財所在地】

